

医療特集

在宅医療のことを もっと知ろう

病気があっても自宅で過ごしたいという人やその家族を支える「在宅医療」。国の推進もあり少しずつ増えているという在宅医療について、在宅医療に特化した診療所「まごころクリニック行徳」の森多克行医師に、話を聞いた。

まごころクリニック行徳 森多克行医師



在宅医療の対象は?

在宅医療は、入院の必要はないが治療を要する病気があり、通院が難しい人を対象としたものです。いわば、入院と外来の中間に位置する医療といえるでしょう。

体調が悪いときのみ医師が出勤「往診」と違うのは、計画的に治療や健康管理を行うという点。月2回の定期訪問が基本

おいしく食べて 四季の養生

「食」は健康の源。季節の食べ物をしっかりとって元気でいたいもの。薬膳のプロフェッショナルが「旬の食物」を紹介し

今月の食物

山芋



春

4月は桜が続いてさまざまな花が咲き誇り、春を感じる時期ですが、後半になると、「春の土用」に入ります。土用は季節の変わり目。胃腸の不調からくる疲れや怠さに気を付けようという時でもあります。この時期は特に、また一年通しても、取り入れたいのが「山芋」です。食材には全て性質があ

り、体を温める・冷やすもの、大きく2種類に分かれます。冷え性体質の方は温める食材を、暑がり体質の方は冷やす食材を取るとよいでしょう。ただし、どちらにも属さないものもあり、それを「平」と言います。平和な性格で、体質に関係なく滋養と強壮・健康維持におすすみたい食材です。山芋は「平」に属し、

桑原祐美 (くわばらひろみ) 国際中医薬膳管理師。中国黒龍江中医薬大学日本校で漢方・薬膳を学ぶ。薬膳料理教室「花凜」主宰。大手介護グループの薬膳監修。

昔から滋養強壮、疲労回復の食材として珍重されてきました。漢方では山薬(さんやく)といわれ、何種類もの漢方薬に使われています。特に胃腸虚弱、疲れやすい、目眩・耳鳴り、頻尿、腰痛などの症状をお持ちの方は常食されるとよいでしょう。病気の抵抗力を高め、強い体質をつくる。パワーあふれる食材です。一般的には、すりおろしてとろろにしたり、干切りにしていただくことが多いと思いますが、今回は温かい山芋料理を2つご紹介します。

① 山芋の茶碗蒸し ② とろろにした山芋に、絹豆腐と卵をさっくり混ぜ、出汁で味をつけます。器に好みの食材を入れて、①を入れて蒸します。

現在、病院で亡くなる人は8割、自宅や老人ホームなどで亡くなる人は2割ですが、「できるだけ住み慣れた地域で医療・介護」という考えから、厚生労働省は2050年にはその割合を半々にするという目標を掲げています。

在宅医療や介護などで分らないこと・相談したいことがあれば、高齢者サポートセンター(地域包括支援センター)や当クリニックにご連絡ください。

在宅医療の現状・今後は?

足立区などは在宅医療を行う機関が多く、患者さんも増えていきます。一方行徳地区や浦安市、江戸川区は全国平均よりも比較的低い世代が多く、本格的な高齢化はこれから。そのため、在宅医療の本格的な需要ももう少し先となりそうです。

今後、高齢化が進めば、がん末期の患者さんの看取りが多くなるのが予想されます。自宅でできるだけ過ごしたいという患者さんのために、サポートしていきたいと思っています。

現在、当クリニックで新規訪問診療を開始する患者さんは年平均150人ほど。開院して3年で、ケアマネージャーや介護ヘルパー、訪問看護師、薬剤師など、地域ケアを支えるチームワークができたので、この地域は患者さんにとって良い環境が整っていると思います。

また、需要が高まっている「在宅医療」への取組みも進めています。ふみはま店には無菌調剤室を設置。高カオリ注射液や医療用オピオイド注射薬の調剤が可能で、薬剤選択の幅を広げて医療提供体制を整えています。

決まった日時に在宅する必要がある中で、時間の制約が嫌いな方は少し苦手かもしれません(笑)。また、自宅に人を上げることが好きではない方も、少し我慢していただく必要がありますね。

今後、高齢化が進めば、がん末期の患者さんの看取りが多くなるのが予想されます。自宅でできるだけ過ごしたいという患者さんのために、サポートしていきたいと思っています。

薬局は、患者にとって最適で安全・安心な薬物療法を提供することが求められています。そのため必要となるのが身近な「かかりつけ薬局・薬剤師」です。

また、需要が高まっている「在宅医療」への取組みも進めています。ふみはま店には無菌調剤室を設置。高カオリ注射液や医療用オピオイド注射薬の調剤が可能で、薬剤選択の幅を広げて医療提供体制を整えています。

健康で安心して暮らせる 町づくりを目指す アオノ薬局の取り組み

いわれる団塊世代が75歳以上となる2025年が、医療制度や介護制度にとって大きな節目になるといわれている。そこに向けての薬局の取り組みについて、「町のヘルス・ナビ・ステーション」を目指すアオノ薬局グループに話を聞いた。

アオノ薬局グループでは、薬を受け取るだけの場所ではなく、「薬や健康についてなんでも相談できる場所」として捉えています。そのため、薬剤師と患者がきちんとしたコミュニケーションをとり、健康で安心して暮らせる町づくりを目指しています。

また、需要が高まっている「在宅医療」への取組みも進めています。ふみはま店には無菌調剤室を設置。高カオリ注射液や医療用オピオイド注射薬の調剤が可能で、薬剤選択の幅を広げて医療提供体制を整えています。

アンサンブルコンサート in 木内ギャラリー 4/15(日) いちかわオープンガーデン2018春に合わせたイベント。森の中の洋館で聞くコンサート。公開リハーサルのある、午後1時から三重奏やアンサンブルが楽しめる。▽4月15日(日) AM11~

アオノ薬局グループでは、薬を受け取るだけの場所ではなく、「薬や健康についてなんでも相談できる場所」として捉えています。そのため、薬剤師と患者がきちんとしたコミュニケーションをとり、健康で安心して暮らせる町づくりを目指しています。



薬 Aonoグループ 街の救急箱 日本全国の処方箋受付 患者さんの薬歴管理の徹底 24時間対応のお薬相談 介護・福祉相談 [アオノ薬局ケアセンター] 無菌調剤室 [アオノ薬局ふみはま店] 漢方相談 [ファーマシーアオノ薬局]